

令和2年度

県立川島中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○生徒一人一人にとって、主体的・対話的で深い学びのある授業の実践
○6年間を見通した計画的・継続的な中高一貫教育の推進

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 教諭 内多聡	委員
	国語科主任:高山めぐみ 英語科主任:板東照美
	社会科主任:三橋博之 理科主任:片岡弘己
	数学科主任・教務主任:東出稔

校長

武田 伊織



【各校の取組状況の把握について】

中高合同の授業見学や学習状況調査など、さまざまな機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業態度はまじめで、各教科において、基礎的・基本的な知識・技能の習得に一定の成果が見られる。 ●学力差が非常に大きく、宿題などの提出物にきちんと取り組めない生徒がいる。	・学習活動を支える基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけている。 ・週末課題や定期考査時の提出物に計画的に取り組む、期限を守ってきちんと提出することができる。	・中高合同の授業見学と研究協議によって、授業力を高める。 ・定期考査前の「質問タイム」と後の「補充学習」の内容を工夫し、充実させる。 ・至誠ノートの提出率を向上させ、学習の計画を立てて振り返ることを習慣にさせる。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○個人や班の考えをまとめて表現し、相手にわかりやすく伝える手段や方法を身につけてきている。 ●基礎的・基本的な知識・技能は習得していても、それらをうまく活用できず、課題の解決につながっていない生徒がいる。	・学校でのさまざまな活動において、生徒同士が学び合い、他者と協働しながら課題を解決することができる。 ・確かな思考力・判断力をもち、豊かな表現力をもとに自分の考えを的確に表現することができる。	・授業や総合的な学習の時間などで積極的に新聞を取り入れ、NIE教育を学校全体で推進する。 ・図書委員会と連携して読書活動を推進するとともに、至誠ノートの読書記録を活用して生徒の読書量を増やす。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○身近にいる高校生の姿に刺激を受けながら、落ち着いた環境で、じっくりと学習に取り組むことができている。 ●学習に対して受け身な生徒も多く、見通しをもって主体的に学習に取り組むことに課題がある。	・自主勉ノートを自分なりに工夫したり、各種検定を積極的に受験したりするなど、自ら意欲的に学ぶことができる。 ・高校生や高校卒業後の自分の姿を想像し、十分な学習時間を確保して、主体的に家庭学習に取り組むことができる。	・高校で学ぶことまで意識しながら、小単位ごとに深い学びを促す場面を1回以上設定する。 ・中高一貫校用の模試の成績を分析して、授業や面談などで活用し、大学入試まで見据えた学習指導を行う。			

令和2年度 学力向上ロードマップ

